

第 5 回 裾野市の教育のあり方検討委員会

議事録（要点筆記）

日時：令和 2 年 3 月 30 日（火） 15：00～16：35

場所：裾野市役所 402 会議室

出席者：委員長 村山功 副委員長 湯山芳健
委員 横山碧 委員 池谷淳子 委員 三浦靖幸 委員 小野島洋子
委員 朝妻正昭 委員 山中なほみ

【教育委員会】

教育長 風間忠純 教育部長 杉山善彦 教育総務課長 勝又明彦
学校教育課長 荒井賢二 生涯学習課長 木原慎也
学校教育課課長代理 渡邊清 教育総務課課長代理 二ノ宮貴之
教育総務課主幹 鈴木直美

傍聴人 12 名

1. 開 会

教育部長

ただいまから「第5回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を開会いたします。
本日が今年度最後の会議となります。どうぞよろしく願いいたします。

2. 教育長あいさつ

裾野市の教育のあり方検討委員会も第 5 回目を迎えることとなりました。委員の皆様にはお忙しい中、時間を割いてお集まりいただきまして、貴重な意見をいただき、ありがとうございました。感謝申し上げます。今日の委員会では学校再編成を中心としたここまでの議論の経過を報告書にまとめるという最終段階の話し合いをお願いしたいと思っております。この会議で学校再編成について扱った理由は、子どもの視線で見たとき、あるいは教育の観点から見たときに学校編制はどのようにしたらよいかという、根本的なところに視点を置いた議論を進める必要があると考えたからであります。このような理由から、この委員会の名称も「裾野市の教育のあり方検討委員会」という名称にした理由でございます。ここまでの議論を一旦報告書としまして次の場面では教育のあり方の議論につなげたいと思っております。お忙しい中ご意見を交わしていただければと思います。どうぞよろしく願いします。

3. 委員長あいさつ

本日もよろしく申し上げます。前回の委員会の後に静岡新聞東部版でこの委員会の記事が掲載されました。横の欄に富士市の同じような委員会の記事が出ていたと思います。気になったものですから、富士市の議事録を読ませていただきました。裾野市は富士市に比べてゴールに向けて辿りつかない議論を進めているなと思っています。私たちはできるだけいろんな立場の人からいろんな論点をいただくように、これまで進めてきまして、最終的には具体的な話は地区ごとの話になっていくと思うのですが、その時に「その話は全然聞いてませんでした。」と、いうことがないように丁寧に皆さんの意見を聞いてきたつもりです。その上で今の私たちにとってでもなく、今学校にいる子ども達でもなくて、10年後20年後にその学校に来る子ども達という観点で、その子ども達にとって、いい教育とはどんな環境なんだろうということを考えてきたつもりです。この報告書に我々がまじめに議論してきたことがきちんと反映されるものができればいいなと思います。

4. 協議事項

① 教育のあり方検討委員会の調査検討結果のとりまとめについて

説明者：教育総務課課長代理

裾野市の教育のあり方について 提言書(案)について説明
はじめに

1. 「裾野市の教育のあり方検討委員会」設置の経緯
2. 裾野市における教育環境の現状と課題
 - (1) 各学校の児童生徒数の現状と推移
 - (2) 各学校の児童生徒数の予測
 - (3) 小・中学校の規模
 - (4) 施設の適正な維持管理
 - (5) 学校の教育環境
3. 教育のあり方に関するアンケートの実施とその結果について
 - (1) アンケートの実施概要
 - (2) アンケートの結果
4. 検討委員会の開催
 - (1) 第1回 委員会
 - (2) 第2回 委員会
 - (3) 第3回 委員会
 - (4) 第4回 委員会
 - (5) 第5回 委員会

5. 小・中学校の再編案
- (1) 基本的な考え方
- (2) 学校の再編案
6. 学校再編の方向性
7. 新しい時代に対応するための学習環境

おわりに

【意見等】

委員長 これが本日の大きな議題となります。まず、順番に議論をさせていただき、まとめていきたいと思えます。ここで、結論が出てしまえば構いませんが、ここで結論が出にくい場合は事務局で引き取らせてもらってから、皆さんの方に報告するという形をとらせてもらいます。

委員 基本的には提言書ですので、これでいいと思えますが、再編案1について、小中一貫校の新設がありますが、東部管内に伊豆市の土肥地区、沼津市の静浦地区に小中一貫校があります。小中一貫校のメリット、デメリットもあるかと思えますが、私が心配しているのは、メリットはいろいろあると思うのですが、将来的に小中一貫校にしても子どもの数が減ってきた場合は非常に厳しい。そういったときに小学生と中学生がいるということで、上手に教育するということはできますので、小中一貫校のメリットはあるかもしれません。土肥の例を見ますと伊豆市の中で土肥地区は離れています。そこで複数になっても補えます。小中一貫校を先進的に先にやっているところのメリットデメリット、地域性を十分に検討してから、この提言書を具体化する場合はやっていくといいと思えます。

 再編案2の魅力は小学校を残しておくということになります。小学校を残しておくということは地域と学校のつながりが一体となっていくことが子どものためにも地域のためにもなり、小学校を残すということは基本的にいいことだと思います。ただ、この小学校も中学校を3校にしてしましますと、小学校の数がどんどん減っていくということもあります。そういう意味ではどこか小学校に特区を作るという考えがあります。中学校を3校にするということは小学校では地域の人たちと地域住民と一体となっていていくという意味ではいいと思えます。中学校になりますと、今度は切磋琢磨していかなくてはならない。そういう意味で将来自立していくためには必要なので、ある程度学級数必要です。以上意見です。

委員長 それはとても大事な論点なので、ここに載せるかどうかは後で考えるとして、少し議論をしていきたいのですが、小中一貫校はおっしゃるとおりメリットばかりではないので、デメリットについても検討するべきです。県内で成功している地域もあるので、選択肢の中に入れるのなら調査はしておくべきと思えます。静浦は昔関わってたのですが、

そこまで小さい学校ではないのですが、静岡市のように梅ヶ島小中学校とか元々小さな学校を統合してなんとか存続しているという地域が静岡市でもある。それがどの程度うまくいっているのか、また、どんな課題があるのかは調べて、それを進めたらどんなことになりそうか調べておく必要があります。小中一貫校についてご意見がある方、他にいらっしゃいますか。それもひとつの選択肢ではあります。意見を言うほど実態がよくわからないということもあるかと思しますので、もしこの話を次の委員会に引き継ぐようでしたら、そのあたりを調べて我々が責任をもって判断できるような状態にさせていただくと助かるなと思います。ご指摘ありがとうございます。

再生案2案に対するご意見ですが、小学生中学生育ち方が違うので小学生はなるべく家の近くの地域で育ててもらって、中学生は少し自立性が出てきて何等かの形で切磋琢磨するという観点で育てるといい意見だと思います。その中でひとつくらいは特区を入れた小学校をつくってもいいのではないかとという意見でした。これについても、どんなことができるのかわからないまま可能性を考えると難しいのと、再編自体本気で議論されると建物の老朽化の方がほっておけないという状態になって、建物の計画等々何年もかかるものですから、そういう時期にはかなり迫ってきてしまい、その時になってから、どこかの学校を特区にしましょうと、いうのは間に合わないです。もし、少子化に対応して特区で生き延びたい考えがあるのであれば、すぐにでもやってもいいのではないかと。特区については、私たちが「この学校でやってくださいね。」と、いうより学校の方で「うちの学校はこういう可能性があるのかという形で特区にし、他の地域から子どもたちを集められるかどうかをやってみよう。」と、手を挙げてもらうとありがたいです。それで可能性があるならやってもいい。例えば県内でも本川根で県外からの子ども達を集めようと、いろんなことをやってますが、地域との取り組みによって上手くいったりいかなかったり可能性としては魅力的なんですけど、具体的にやって、実際にできるのであれば、できれば早いうちに手をつけてもらえるとありがたいなと思います。その時には当然地域の協力が大切になると思います。学校だけでなく地域をあげて早めに取り組みをやってもらえると、これでいけるいけないというのが、根拠をもって判断できるのではないかな。と思います。

委員

具体的に再編案が3案出ていますが、具体的には裾野市と同じような事情を抱えている自治体の事例を勉強しながら最終的には絞っていきわけですけれども、そういう意味では提言というのは、ある程度メニューを示して、具体的にこういう自治体があるという事例は次のステップにいくわけですね。

委員長

その通りです。提言書はこのレベルです。何らかの形で次のステップにいけるかと、いうことで押さえると思うのですが、ただ、せっかく集まっていたので、今後

の事を考えるとそれは議論をしておきたいかなど。最初の説明でもありましたように、学校の校舎の建て替えに関しては期限があり待たないななので、それまでにやれることはやって調べることは調べて、納得した方が地域にとっても子どもたちにとってもいいと思います。次の委員会に行くときにはそのあたり問題が整理されてきていると思いますので、そこを具体的に材料をもって判断していきたいと思っています。このところが一番具体的なのでご意見いただきやすいかなと思います。あと、3案を含めてなにか言っておきたいということはあるですか。

委員 教えていただきたいのですが、さきほど特区を作ったほうがいいのではという話があったのですが、この前、三島の小学校のチラシがスポーツ教室に貼ってありました。この小学校に「こんな魅力があります」ということが書いてあって、そういう魅力って小規模校ならではなんだろうな。と、思いました。そういう小学校から中学校に上がる場合というのは、全体的に見て通常大きな中学に上がるのか、そのまま小規模の中学校に上がる等いろいろだと思いますけどどんな体制なんですか。

委員長 それは地域によると思います。特に近くに大きな中学校がそもそもない場合もあるので、小さな小学校から何校か集まって中学校に行くのですが、結局、中学校も小さいということがあります。かと思えば、大きな小学校、中学校の中でまわるというところもあって、それは地域ごとに違います。今は裾野市の場合は大きな中学校へ行く場合もあれば、小さな小学校から小さな中学校へ行く子ども達もいます。地域の現状でケースバイケースです。

委員 その小学校に入学しようと考えたときにまず、どんなふうに進学するんだろうと親としては大事なポイントなんだろうなと思いました。実際に地域によってそれぞれだと思いましたが、希望してみえる方というのはその後中学へ進学するにあたり、どんなことを期待できるのか興味があると思います。

委員長 確かに、再編案で言えば1と2で全然違う。1の場合は小さな小学校から小さな中学校へあがるという道もあるわけですが、再編案2に行ったら必ず小さな小学校も大きな中学校へ行くという形になるので、案1でいくか2で行くかによって可能性は変わってきてしまう。一概にこうですというのは言えない。逆に言うとそういうことを希望されている保護者、子ども達に中学校に対してどんな希望を持っているのか聞いてみてもいいかなと思います。われわれは推測でしか語れないので。

委員 具体的に三島の坂小の場合は錦田中学校に全部行きます。錦田中学校は大きな中学校です。ですから、今言われたように坂小に特区として入った子どもが、その先中学に

どういうふうに進むのか、そのあたりは教育委員会同士は当然、個人情報があるでしょうけど、話が通じるものがあるのではないかと思います。そのあたりは分析しておく必要があります。それによっては小学校でどういう内容のものをどういうふうにしてやっていくかということに対してつながってくるわけです。

委員長 今回はどういうものに対して大事にするか、これを大事にすればこんな感じという形で3つ抽象的に言ってもイメージが湧かないので、この案でいけばこういう編制になりますよねと、具体的に議論ができるようになってます。実際にそうなったらどうなのかまでは今回は踏み込んで考えていない。次に考える機会があるとすれば、もしそうなったらどうなるのという考えはデータを集めて議論しなくてはいけなかなと思います。

委員 たまたま十里木のふんわりこんが合宿所で使っているというニュースを見ました。高地トレーニングをするためにスポーツ選手がペンションに泊まりながら合宿をしているのを見たときに、例えば坂小は英語教育をする特区をとる。例えば須山小中は小中一貫校にした場合、運動に力入れますよという特区もありかなと思います。十里木の空別荘もあるのでそこに住みながら、工業団地に勤められますよ。という流れができれば、大規模校で行きにくい子は小規模で、きめ細やかな教育が須山小中ならできるし、運動もできますよという売りこみをすれば須山小中一貫校が生きてくるのかなと考えました。

委員 今回は提言書で終わりなんですけど、この後引き続きで当然具体的にどうしますかということが行われていくと思いますので、その時にアイデアがあればあったほうがありがたいです。

委員 学校は現状維持なのですが、例えば東中と西中の一部の通学区域を調整する場合は訂正になるのか論外として考えているのか。

委員 考え方としては再編案の1だと思います。子どもの通学という観点で学校を考えるとこの形なので場合によっては、学校は残すが学区は再編するというのは再編案1の考え方です。再編案1が大まかな抽象的に示している具体的な例として学校の再編というのはあり得ると思います。

今ご意見いただいたように、いろんな可能性はあるわけですけど、何も動けない状態から5回の会議を通して、大事にしたいものが出てきて組み合わせると再編案1~3の形になります。その中でどれをとって、中で調整するかとある程度問題が整理できたと思います。前進したと言っているいいのではないのでしょうか。1~3で大事にしたい組み合わせがあり、どれが一番大事と思うか。その中でも実現するやり方はあり

ます。

また、他に何かあったら今週中までに事務局に回答し、事務局の判断で提案に組みこんでもらってください。

②今後の進め方・取り組みについて

説明者：教育総務課課長代理

- ・令和2年度以降（教育振興基本計画策定に向けて）
- ・令和2年度以降（学校再編に向けて）

スキームについて説明

委員長

今回はいろんなことが解決していなくて議論してきたわけですが、今回は現実には学校再編の話を中心としていきました。これに関しましてはやはり地域の問題が出てきますので、特に市長部局との関係で「地域との対話」という方向で進んでいただくことが必要かなと思います。それ以外の ICT など議論できなかったことは教育の方でどういった環境を整えるか、どういう教育をさせるのか教育の問題として考えなくてはいけない。教育の部分に関しては皆様に引き続き議論をお願いしたいです。ここでは提言書を出して、2つの方向で進めていきたいと思います。

それでは提言書に戻りまして意見があればお願いします。

委員

統合した場合、学区が広がるので登下校手段はスクールバスになるのでしょうか。スクールバスに乗り遅れた場合の手段はあるのかなとか、自転車が乗れない子に対しての手段とか、どうするのかということを見ると、やはり小学生は歩ける距離がいいと思います。もし統合するなら交通手段を確保していただきたい。

委員長

実際、どれかの案になった場合に、やはり問題が出てくるのでこれに対して一つ一つ潰していってもらいたいと思います。そういった論点に関しては次の委員会に送っていただきたいので、もし他にありましたらお願いします。

最後に順番にご発言をお願いします。

委員

裾野市は大規模、小規模校が両方裾野市にあるということを魅力です。前回は北中案が良かったのですが、提言書を見たときに須山小中は残して東中、西中、北中という形で、大規模校もあるし小規模校もあるというような教育環境が大事かなと思います。小学校は地域密着型でコミュニティスクールということもあるけれど、地域の見守りとか、安全とか、防災とか何かあったときの顔がわかる関係を小学校時代に築いておけば中学校に行っても離れた学校に行っても「お帰り」と言えるような関係が作られ

ばいいのかなと思います。バスとか財政の面等いろんな面で検討しなくてはならないことはたくさんあります。大規模校の中でも小規模校の中でも丁寧な教育を推進するには支援員とか大人の目がたくさんあったほうがいいです。豊かな財政の中で子ども達が丁寧な教育が受けられる環境が作られたらいいなというのを感じています。

委員長 小規模校は小規模校の良さがあるので市内にひとつあってもいいよね。と、それはありだと思うのですがその場合には市内のどこからでも選んでいけるよねという制度も必要です。

委員 最初、再編案3がいいと思いましたが話を伺い、中学はある程度の学級数があった方がいいと思います。ですが、小規模校の良さも捨てがたいので山中委員のように小中学校1校残して小規模校に行きたい子が選べるのもいいのではと思います。副担任の先生がいる位の規模もいいのですが、痰飲と副担任2人いるからとって、子ども達一人一人に目が届くのではなく、支援が必要な子どもだけに行きがちでしたので、大人の目が副担任だけでなくたくさんあったらいいなと思います。

委員長 小規模校があつたらいいとか、場所をどうするかは別問題です。小規模校があつてもいいかなということは価値観として大事です。小規模校はメリットもあるのでどうやってメリットを大きくしていくか。今の小規模校が今の内からこんなことできるんだよと示してくれれば議論もしやすくなると思います。今ある学校が努力していただけると次のときに具体的な可能性が見えてくると思います。

委員 最後のページの令和2年度再編に向けてです。地区懇談会をいつ頃開催できるのでしょうか。地区懇談会を開くと地域でいろいろ意見があるわけですが。地区懇談会は資料を充分備えて、一つの案にしぼったものを素案にし、それを説明するのかあるいは地区懇談会で意見を聞いて、また元に戻って再び考えていくのかそのへんどうするのかは、これから考えると思うのですが。地区懇談会を開く上にはきちんとその辺を考えて開かないと、令和2年度のギリギリになってもいいかもしれませんが、そういったものをやるからにはきちんとしなくてははいけない。

委員長 学校の地区説明会に業者さんに来てもらうことはよくあるのですが、そのときには決まったものを説明するということになるので、決まる前に地域で意見を言うことはなかなかない。そういう意味ではこれでいきますけど、というような意見を聞くのではなく、それぞれの地域でみなさんの考えを聞いておいてもらいたい。今回ここではできなかったわけでこの委員会では申し送り事項という形でお願いします。

委員 少子化の流れというのは止められないなと思います。検討委員会の取り上げた理由は

私なりには少子化に対するハード面の学校の対応をどうするかということにあると思います。その結果として、提案書ではハード面ではどういう形にしたらいいのかということがあると思うのですが、ハード面を良くしたら安全になると同時に、ソフト面が絡みあって一番いい形でいくようになってほしい。

国内のどこかの島では子ども一人に先生が何人もというところがテレビで報道されたり、いろんな形で全国でも困っている。逆に裾野市がモデルとなるようなそんな形が出てくればいいなと思います。

委員長 そういう意味では地域からどんどん提案がいただけるとありがたいかなと思います。

委員 今小学校に対して安心感を感じています。統合するとどちらかという不安を感じてしまうかなと思っています。それはアンケートでもあったのですが、「何が一番大事ですか」の中に、行政区との関わりとか大きな支持ではなかったのですが、それは決して大事ではないということではなく、行政が何をしてくださっているのかを私たち世代が知らない、または知ろうとしてないということがあるかもしれない。だから自分の身近な項目に対してアンケートで○をしていくのだと思います。知らないことは損だし、今が一番いいとは思いますが、変えるとこういうメリットデメリットがあるよということをみんな興味を持ってほしいなと思います。情報を手にしやすい状況があったほうがいい。そうすると新しいことも不安がなくいけるのかなと思います。

アンケートを毎年出してくださると思うのですが、今回のアンケートは年長と小学生が同じ内容だったのですが、年長の親は何を聞かれているのかわからないので曖昧に答えてしまった。アンケート内容を変えるとか、また、幼稚園から小学校に不安を抱えている方に聞くともっといろんなことが見えてくるのかなと思います。

ここで知らない情報がたくさんあり、勉強させていただいたので、みんなにわかりやすく情報が行き届くといいなと思います。

委員長 アンケートについてはいろいろ改善できることがあると思います。この後生かせてもらえたらいいと思います。

学校が自分たちでできることを挑戦してもらいたいと、話しましたがそういう意味では地域でもちゃんとやっていることをアピールしてもらわないと、知っている人は知っている。知らない人は知らないという状態でこの話が進んでいくと、知っている人知らない人で意見が割れることがあり得ます。数年後にこういう問題が出てくるんだということが、やっぱり地域の方もご理解いただいて、それに向けて今からできることがあればやっておいたほうがいいじゃないかなと、思います。自分たちでできることできないことがはっきりする。これならいけるということがあれば粘ってもらいたい。知らないうちに話が進んでいかないようにこの後の話を進めてもらいたい。

委員 毎回たくさんの資料をいただいてここに至るまでたくさんの時間、労力には頭が下がります。もっと裾野市民の方が興味、関心するような情報が増えるといいなと思います。教育は読み書きだけではないです。人を育てることに裾野の人は首都圏よりおっとりしていると思います。もっと教育に関するイベント、お知らせとか情報があってもいいかなと思います。

委員長 首都圏は公立に対して否定的な環境です。いろいろな選択肢があるので調べていかなければいけないことに対して、そういうことをしなくても地元の学校に行けば幸せに育っていく地域は、それはそれで幸せかなと思う。こういう問題を学校なり地域で決断していかなくてはいけない時期が来るので、それまでにいろいろな形でみんなで自分が決められる状況にはなあってほしいなと、思います。地域や学校で表に出して今やれることをやって、いい雰囲気にしていかなくてはいけない。

委員 自分は裾野市内の中学校を全部務めさせていただいて、小規模校から大規模校までそれぞれの良さを感じています。最初この会議に参加するということになったときに未来の学校、未来のことを考えるというのだろうという発想をもって参加しました。将来いろいろ期待があった部分があって、でも、現実の問題をより現実的に解決する方法を真剣にここで話し合うとわかっていく中で、予算の面とかいろいろなことを頭の中で考えてしまい、無責任なことは言えないなと。発言することは難しかったです。その中で小規模校を再編して統合しなければならない。そうなった時に地域の核を失うとか、大きな問題が生じるんだろうなと思います。統合するというのとは一つの場所に作らなければいけないことではないと思う。例えば10年20年先になったら違う場所にあっても、統合したことには変わらないのでは。現実にもそういう世界はいっぱいあります。今コロナの関係で、このところ学校現場は授業もできず、非常に厳しいところがあって、ICTと言っている割には集会を体育館でやらずに教室でやろうといったときに、なぜ放送室の画像がテレビに映らないんだろうなど、たかだかひと昔前のこともできてないような市の現状がある。そういう部分の予算づけが難しい。どれ位お金をかけられるんだろうなということが、一番大きなミソになってくるような気がしまあう。

委員長 最終的に結論決めるところは、予算の問題とか考えて予算を切っていく立場になるので、少し枠を広げておいた方がいいと思います。委員会自体はこれで終了しますが、今週中に言い足りないことがありましたら委員会の方をお願いします。不手際で言いたい意見も言えず論点がきちんと定まらないまま5回の会議を終えましたが、いろいろな意見をいただいて、提言書というひとつの形にしていきたいと思います。どうもありがとうございました。議事を事務局にお返しをします。

5. 閉会

教育部長

長時間に渡りありがとうございました。

4月24日（金）に教育委員会に対して提言書を提出する機会を設けましたので、ご都合のつく委員の方は参加をお願いいたします。

本年5回の委員会を開催し、これまでの協議を踏まえ、提言書策定の目途がたちました。委員の皆様にはお忙しいところご協力をいただき、ありがとうございました。また、次年度には教育振興基本計画の策定も控えております。是非、次年度もご協力を賜りたいと思いますので、よろしく申し上げます。

以上をもちまして、「第5回 裾野市の教育のあり方検討委員会」を閉会いたします。

本日は、どうもありがとうございました。

16時35分 会議終了